

地域のみな様と、私たちをむすぶ広報誌



京都中部総合医療センター

Kyoto Chubu Medical Center



CONTENTS

- | | | |
|-------------------------------|---------------------------------|---------------------------------------|
| ■院長挨拶 ① | ■診療科紹介 小児科 ⑤ | ■在宅医療への取り組み ⑨ |
| ■令和3年度 患者満足度調査 ② | ■整形外科赴任医師の紹介 ⑤ | ■安全な看護を提供するため、
看護師を募集しています ⑩ |
| ■当院の役割
臨床研修指定病院として ③ | ■働き始めて 新人職員のメッセージ ⑥ | ■地域医療連携室より ⑩ |
| ■1年目研修医の紹介 ③ | ■医療安全管理部門の取り組み ⑦ | |
| | ■京都中部総合医療センター
看護専門学校 ⑧ | |

地域医療支援病院 臨床研修指定病院
救急告示病院 日本医療機能評価機構認定病院
地域がん診療病院 第二種感染症指定医療機関
地域周産期母子医療センター ヘき地医療拠点病院
京都府地域リハビリテーション支援センター
京都府災害拠点病院 (地域災害医療センター)
DMAT指定医療機関 認知症疾患医療センター
エイズ拠点病院 京都府難病医療協力病院

京都中部総合医療センター

〒629-0197 京都府南丹市八木町八木上野25番地
TEL 0771-42-2510(代) FAX 0771-42-2096
<https://www.kyoto-chubumedc.or.jp>





2022.7

Vol.54

夏号

病院の理念

地域の拠点病院として、患者さん中心の良質な医療を行い、地域に愛され信頼される病院を目指す。

病院の基本方針

1. 常に患者さんの立場にたち、権利を尊重して医療を行います。
2. 地域の医療、介護や福祉等との連携を推進し、最終拠点病院であるとの認識に立って地域支援に努めます。
3. 救急医療体制を充実し、いつでも安心して受けられる医療を目指します。
4. 集学的医療の提供を推進し、地域で完結できる高度ながん医療を行います。
5. チーム医療を強化し、医療の質や安全性の向上のため、全ての職員が資質の向上に努めます。
6. 公営企業としての役割を果たすため、経営の効率を高め、健全な経営に努めます。

患者さんの権利と責務

私たちは患者さまの権利を尊重し、十分な説明と合意に基づいた医療を行います。

1. 説明を受ける権利
2. 治療を選択する権利
3. 情報を知る権利
4. 個人匿報の保護を受ける権利
5. 自分の健康情報を正確に提供する責務
6. 説明を理解するまで問う責務
7. 病院での規則に従う責務

院長挨拶

～美しい新緑の季節に～

院長 ^{たつみ てつや} 辰巳 哲也

今年も病院の周りで例年通り田植えが始まりました。通勤の合間に車の窓から見える風景は水無月らしい水田に映る緑の山並みで、毎年心をなごませてくれます。梅雨の合間の日差しは早や初夏の訪れを感じさせます。

新型コロナウイルス感染症が全世界に感染拡大してから既に2年が経過しました。オミクロン株による第6波も新規感染者の高止まりが続いていましたが、6月に入りようやく減少傾向に転じました。現在は3回のワクチン接種により感染者数が減少し、デルタ株でみられたような重傷者・死亡者が減少しています。

日本各地でもすでに様々なイベントが観客を入れて行なわれており、全国的に社会的行動制限は緩和されつつあります。4回目のワクチン接種も高齢者と基礎疾患のある人に限定して接種される予定で、コロナ対策も重症化予防に軸足が移っているように感じます。医療従事者として全く注意を怠るわけにはいきませんが、コロナ対応にご尽力頂いてきた職員の皆さまにも、少しリラックスしていただける時期が来ていると思います。

世界に目を向けると2月から始まったロシアによるウクライナへの軍事侵攻は現在も続いており、罪もない大勢のウクライナ人が死傷したり国外へ避難し、両国ともに戦争での犠牲者が増え続けています。独自の歴史観や国家観、複雑な歴史的背景があるにせよ、戦争での代償の大きさを考えれば一刻も早い解決を期待するばかりです。米国や欧州を中心とする国際社会はロシアに対して厳しい経済制裁を科したため、資源大国のロシアから原油や天然ガスなどの供給が大きく減少することにより、世界的なエネルギー価格の上昇が生じています。さらに小麦価格の高騰や急激な円安の進行は急速な物価高、原材料高を招いています。東欧の一部で生じた戦争が世界経済を巻き込み、その影響が日本経済にも深刻に及び続けることを危惧しております。

京都中部総合医療センターは令和8年に新棟開院にむけての準備を進めています。既に新棟整備基本構想のパブリックコメントも終わり、現在は新棟整備基本計画書を策定中です。まさに期待と課題に満ちたプロジェクトです。新興感染症など非常時にも対応できる新棟建設を是非とも成功に導きたいと考えておりますが、建築物価の高騰や資材不足など乗り越えなければならない課題が山積しています。また内部的には人材確保、医師も当然ですが特に看護師のさらなる確保が必要です。これまで公立南丹看護専門学校（現 京都中部総合医療センター看護専門学校）を中心に看護師の新入職者を募って参りましたが、コロナ禍の影響もあり離職者が増加しております。新病院が適切に当医療圏の高度急性期・急性期～回復期における地域包括ケアシステムの中心的役割を果たすためにもお心当たりのある看護師・助産師のご紹介を賜いますよう、どうか宜しく願い申し上げます。

京都中部総合医療センターはこれからも最適で安全な医療を住民の皆さまに提供するため、職員一丸となって頑張りますので、今後とも皆さまのご協力とご支援を賜りますようどうか宜しく願い致します。皆様の夏が今年も楽しい思い出となりますようお願いしております。



令和3年度 患者満足度調査

副看護部長・業務改善委員会 藤阪 ^{ふじさか}みさ代^よ

当院では、患者さんへのサービス向上を図るため、患者満足度調査を実施しています。令和3年度も患者さんやご家族にご協力いただき、調査を行いましたので調査結果をご報告します。

外来部門

外来部門について、令和3年10月18日から10月22日までの期間、アンケート調査を実施し、794名の方からご回答頂きました。その内の約95%が南丹市、亀岡市、京丹波町にお住まいの患者さんとなっています。

アンケートでは、大きく「施設について」「サービス面について」「接遇面について」の調査項目となっています。今回、新たに当院への「来院方法について」の調査と施設面の中に「駐車場の使いやすさ」を追加調査いたしました。結果、来院方法ではコロナ禍の影響もあり78%が自家用車で来られており、曜日によっては、駐車場に入ることができなく地域の皆様にご迷惑をおかけした事態も発生していました。また、「建物全体が古く通路が狭い」「トイレが古く使いにくい」といった意見は前回のアンケート調査と変わらず多く頂戴しご不便をおかけしております。

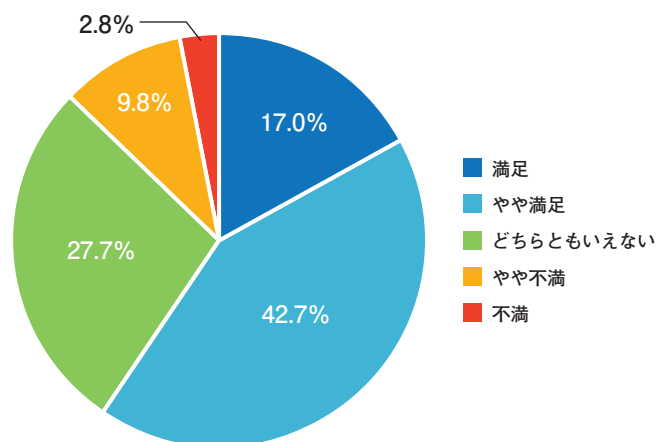
現在、新棟建設への計画が進められていることは、地域の皆さまにも周知されており、今回のアンケート調査のご意見を反映させて行きたいと思えます。いましばらく現在の状況が続きますがご理解ご協力いただければ幸いです。

入院部門

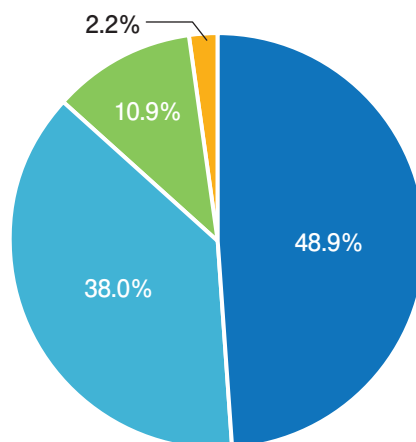
入院部門について、令和3年10月17日から10月29日までの期間、アンケート調査を実施し、142名の方からご回答頂きました。外来同様その内の約95%が南丹市、亀岡市、京丹波町にお住まいの患者さんとなっています。

外来と同様に「来院方法について」の調査を行い、73%が自家用車を利用されており、入院患者さん専用の駐車場確保が必要になると考えます。施設面については、テレビのBSやWi-Fiを希望される意見が多くあります。「入浴施設が使いにくい」や「病棟の案内図がわかりにくい」といった意見を頂戴しました。サービス面では「暖房が効きすぎている」や「同室者がうるさいと落ち着かない」といった入院生活に関する意見を多く頂戴しました。接遇面では、「手術前に声をかけていただき安心しました」や「丁寧に一生懸命対応していただき、気持ちよく治療を受けることができました」といったお褒めの言葉を多くいただきました。

外来総合満足度



入院総合満足度



今回の調査を通じて、患者さんやご家族の皆さんからいただきました、励ましや感謝の言葉は職員にとって大きな励みとなります。至らぬ点のご指摘や厳しいお言葉には真摯に耳を傾け、今後も一層の患者サービス向上に取り組む次第です。

調査にご協力いただきました皆さま、ご協力ありがとうございました。

診療参加型臨床実習

(クリニカルクラークシップ)の受け入れ

消化器内科部長・研修管理委員 かねまさ ひでとし 金政 秀俊

当院では京都府立医科大学医学生の診療参加型臨床実習（クリニカルクラークシップ）の受け入れを毎年おこなっています。医学生が医師になるための必須の実習で、必要な試験に合格した学生のみが当院の診療チームの一員となり、診療に参加する形で実習をおこない、医師としての知識、技能、態度を学びます。学生は京都府立医科大学から順次、数人ずつ派遣され、各診療科や地域医療の現場で実習に参加します。

残念ながら昨今の新型コロナウイルス感染症の拡大により実習が延期や中止となり、学生、受け入れ病院ともに大変な状況ですが、可能な限り学生に実り多い実習をしてもらうよう取り組んでいます。来院したすべての学生は真剣に実習に取り組んでいます。当院で実習した学生が将来、当院で地域医療の一端を担ってくれる日を楽しみに今後も続けていきたいと思っています。

京都府立医科大学6回生 さか た とおる 坂田 貫

京都府立医科大学から、1ヶ月間京都中部総合医療センターにて臨床実習をさせていただきました。救急や各診療科での実習だけでなく、京都中部総合医療センターが担っておられる地域医療における役割について、とても多くの学びを得ることができ、大変充実した実習となりました。

その中でもとても印象的に感じたのが、地域包括ケアシステムの存在です。患者さんを治療することだけでなく、治療後の生活支援や介護予防の取り組み、必要となる介護サービスとの連携がなされていることを知り、患者さん中心の医療を実感しました。将来医師として働く上で、患者さんの立場に立って、治療していくことを心掛けていきたいと考えました。

日々忙しい業務の中、学生の指導や教育に携わっていただいた職員の方々には大変感謝しております。厚く御礼申し上げます。



救急研修で衛星電話を用いて通信を体験し、災害拠点病院のDMATの活動を学んでいる光景

1年目研修医の紹介

いのうえ まゆ 井上 茉優

南丹医療圏内で生まれ育った私にとっては、医師としての第1歩を幼い頃から最も来院する機会が多かった当院で踏み出せた事を大変嬉しく思っております。上級医やコメディカルの方々、先輩、同期に恵まれ、日々自分の成長を感じています。私は将来、外科系のマイナー科を目指しており、今後もこの地域の医療に関わりたいと思っております。今はまだ慣れない事の方が多く、ご迷惑ばかりおかけしていますが、この地域を支える医療者の1人としての自覚を持ち、日々精進して参ります。

おおたに ゆう き
大谷 勇樹

香川県（うどん県）から参りました。出身も大学も香川ですが、縁あってこちらの病院で働かせていただくことになりました。4月から医師として1年目のスタートを切りました。できないこと、分からないことだらけであり、反省と復習の毎日を送っておりますが、少しでもこの病院の力になれるよう精進して参ります。

よし た むね ひろ
吉田 宗弘

就職してから、わからないことやできないことだらけでご迷惑をおかけしていますが、充実した日々を送っています。当院は診療科や職種の垣根が低く、上級医の方々やコメディカルの方々から指導いただいております。できるだけ早く社会人としても、医師としても1人前になれるよう精進いたします。

は が りゅう
羽賀 龍

昨年実習させていただいた際に、病院全体の雰囲気が高く、大学の研修プログラムのたすき掛け先として当院を志望しました。社会人として1年目、独り暮らしも初めてで、家事、仕事と勉強とのやりくりが難渋している状態ですが、1ヶ月経って少しずつ慣れてきたようにも思います。日々、同期や先輩、指導医やコメディカルの方々に助けられてばかりですが、早く一人前の医師として社会に貢献できるようになりたいと思っております。

よし かわ ひと し
吉川 仁司

京都府立医科大学のたすき掛けで1年間、当院にて研修をさせていただくこととなりました。まだまだ分からない事が多いですが、周りの方々の助けを得てなんとか出来る範囲が広がってきました。どのような場面でもなにかしら役割を与えていただき、当院の教育に対する意識の高さを感じています。この機会を無駄にせず将来素晴らしい医師になれるよう努力していきたいと思っております。

はし や ふみ や
橋谷 文弥

病院見学の際に先生方の雰囲気惹かれ、是非当院で研修をさせていただきたいと思い入職しました。京都出身で、島根県出雲地方で6年間過ごしたのち、戻ってきました。先生方、コメディカルの方々に助けていただき自分の力量不足を実感する日々ですが、この地域の医療に貢献できるよう精進して参ります。

よし むら ゆう き
吉村 悠希

新しい環境の中、不安も多くありますが、指導医の先生をはじめたくさんの方々に優しく支えていただき、少しずつ仕事にも慣れてきました。まだまだ分からないこと、できないことが多く、ご迷惑をおかけしてばかりですが、患者さん一人ひとりと向き合い、この地域の医療に貢献できるよう頑張っていきたいと思っております。

やま わき ゆう か
山脇 悠加

京都中部総合医療センターには大学の実習でお世話になり、多職種の方々が活発に対話し診療を進めていく姿に魅力を感じて志望しました。駆け出しの身で至らない点も多いですが、指導医の先生方はもちろんコメディカルの方々も親身になって指導していただき、とても感謝しています。一年という短い期間ではありますが、日々励んで参りたいと思っております。



小児科

Pediatrics

小児科副部長 かね だ だいすけ 金田 大介

京都中部総合医療センター小児科は、南丹医療圏（亀岡市、南丹市、京丹波町）を支える小児科入院施設として、地域の先生方と連携しながら、こどもたちの健康を守るお手伝いをしています。

常勤医師6名体制で入院治療並びに外来での一般診療、予防接種、乳幼児健診、アレルギー外来などを行っているほか、京都府立医科大学からの非常勤医師派遣により、循環器（心臓）外来、神経外来、代謝・内分泌外来、腎臓外来などの専門外来も設けています。

また、365日常に小児科医が当直する小児救急体制を維持しています。

**一般外来：平日の午前**

小児科一般の診療を行っています。新型コロナウイルスの対応のため、発熱や咳などの気道症状のある方は、発熱外来としてまず駐車場内での検査対応を行っています。発熱外来の体制については流行状況で変化しますのでお問い合わせください。その他、健診、専門外来前の初診（改めて専門外来へつなぎます）、紹介患者様の診療など行っています。

予防接種・1ヶ月健診：金曜日午後

当院出生の方の1カ月健診や、年々増加している乳幼児の定期接種やその他の任意接種に対応しています。

アレルギー外来・食物負荷試験：木原部長

アレルギー専門医でもある木原部長が、積極的に食物負荷試験（外来・入院とも）を行っています。他の医師が担当することもあります。

慢性外来：各常勤医師

定期的なフォローが必要な様々な疾患のこどもたちを、午後の外来で診察、検査、投薬の調整など行っています。

各専門外来

- 循環器（心臓）外来（竹下医師）毎週火曜日：心臓検診の精査、川崎病、先天性心疾患
- 神経外来（田浦医師）毎週火曜日：てんかん、発達のフォローなど
- 代謝・内分泌外来（杉本医師、森元医師の交代制）毎週水曜日：低身長、糖尿病、甲状腺機能障害など
- 腎臓外来（大矢医師）第1月曜日：ネフローゼ症候群、急性腎炎、水腎症など

各専門の医師と連携しながら常勤医師も診療を担当しています。

整形外科赴任医師の紹介整形外科医員 し かた たつみ 四方 巽

初期研修終了後、この春から整形外科医となり、京都府立医科大学整形外科科学教室で3ヶ月間研修を行ってまいりました。京都中部総合医療センターには学生実習で1週間お世話になった経験があります。その際に、患者さんから「立派になってまたこの病院に戻って来てな！」と声をかけていただき、とても嬉しかったことを記憶しております。

まだまだ立派とは程遠い勉強中の身ではありますが、この南丹の地で整形外科領域を中心に多くのことを学び、皆様のお役に少しでも立てるよう精進して参ります。よろしくお願いいたします。

働き始めて

新人職員のメッセージ

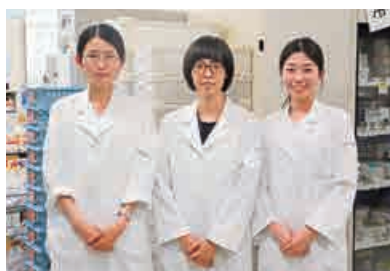
看護師



いわもと りな おおしま なな なかにし あいな
岩本 里菜 ・ 大島 奈々 ・ 中西 愛奈

入職して3ヶ月が経ち、6月からは病棟へ配属されました。在学中は新型コロナウイルス感染症の影響もあり、病院での実習の機会が減り看護師になることが不安でしたが、入職し先輩方からの丁寧な指導を受けながら、毎日少しずつ出来ることも増え、また楽しいと感じることも増えてきました。これからはさらに出来ることを増やし、まだ経験できていないものは積極的に実践していき、先輩たちのような立派な看護師になれるよう日々努力し、精一杯頑張っていきたいと思います。

薬剤師



とくぜん ゆみ はやた まりこ よねやま まほ
徳善 由深 ・ 早田 真理子 ・ 米山 真穂

4月から新社会人となり、新しいことの連続で、毎日緊張感をもって勤務しています。現在は先輩方からの指導を受けながら、病院薬剤師として、また社会人としての基礎を学んでいます。将来は他職種と連携し、薬学の知識で患者さんの治療に貢献できる病院薬剤師になりたいと思っています。まだまだ至らない点が多いですが、3人で切磋琢磨しあい、ひたむきに知識や経験を積み重ねて参ります。

診療放射線技師



せき なつみ よこしま けいご
関 奈津美 ・ 横島 佳吾

4月の入職時は分からないことばかりで不安でした。大学と臨床との違いに戸惑いがありましたが、優しい先輩方に指導いただき、仕事にも少し慣れてきました。放射線を使う検査や治療に不安を抱える患者さんがその不安を少しでも取り除けるように寄り添っていきたいと思います。また、放射線による被ばくを低減しながら良質な画像を提供できるように知識と技術を身につけ、地域医療に貢献できるように励んで参ります。「明るく・元気に・真面目に」をモットーに話しやすい診療放射線技師を目指します。

臨床検査技師



くずおか けい たかやま みな
葛岡 慶 ・ 高山 実那

前職では主に内視鏡検査と検体検査に携わっていました。当院では活躍の場が大きく異なりますが、頼れる先輩方のご指導のもとでいち早く順応し、臨床検査科の業務拡充に向けて力になれるよう精進してまいります。（葛岡）

臨床検査技師として医療に貢献できていることを嬉しく感じています。知識、技術ともに未熟ですが、先輩方に丁寧に指導をしていただき、多くのことを学ばせていただくことで、少しずつですが、臨床検査技師として出来ることが増えてきたように思います。これからも日々の学びを大切にして、先輩方のような臨床検査技師になれるように努力していきます。（高山）

地域医療連携室



しみず ゆうじ ふくしま まさひろ
清水 悠史 ・ 福島 正紘

中学生の頃に大きな病気を経験した時に、私の要望と症状から、私に合ったりハビリ病院への転院を医療ソーシャルワーカー（MSW）の方に調整してもらいました。その時の経験からMSWを目指してきました。まだまだ反省続きの日々ですが、患者さんや家族の思いを最大限反映し、より良い退院支援を目指したいと考えています。（清水）

患者さんや地域の医療機関と診療現場との連絡調整などの業務を担当しています。社会人一年目で分からないことが多く迷惑をかけてばかりですが、成長し貢献できるよう日々精進して参ります。（福島）



医療安全管理部門の取り組み

医療安全管理室 室長 ^{やました}山下 さやか



京都中部総合医療センターにおける医療安全管理部門の活動についてご紹介いたします。当院の医療安全に対する基本的な考えは、患者さんが安心して医療を受けられる環境を整え、良質な医療を提供するために、組織的に取り組む事故防止と、医療従事者自身が個人レベルで取り組む事故防止を行うことが患者さんの安全を守り、患者さんの信頼を得ることができるしております。「安全は一人ひとりの自覚から」という意識がなければ事故を防止することはできません。医療安全管理部門はさまざまな取り組みにより医療安全推進活動を実施しています。

医療安全に関する取組

- 定例の医療安全カンファレンス、医療安全管理対策委員会の運営
- 医療安全研修会の企画・運営
- 医療安全ニュースの発行
- QIプロジェクト調査
- インシデント・アクシデント報告の収集分析・防止対策立案・周知および評価
- 医療事故防止マニュアルの改正提言
- 院内ラウンド

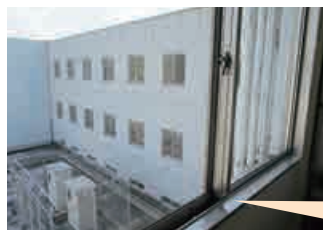
医療安全地域連携相互ラウンド

地域の連携病院と医療安全活動状況の評価や安全対策に関する意見交換などを行い、医療安全対策の標準化を推進するとともに、医療安全の質の向上と均てん化を図っています。



安全対策

昨年度は転落事故防止対策として、院内の窓枠に安全ストッパーの取り付けを実施しました。さまざまな検討を重ね、窓の開閉は15cmになっています。



窓ストッパーの使用

オレンジのパーカーでラウンド

定期的に薬剤ラウンド、転倒転落ラウンド、療養環境ラウンド、危険予知ラウンドなどさまざまな院内パトロールを実施し、医療安全カラーであるオレンジ色のパーカーや腕章を付けラウンドしております。医療安全管理部門は、患者さんと職員の安全を守るべく日々活動しています。安全対策に関するご相談、ご意見などございましたら、お気軽にお声掛けください。



災害看護現地実習を終えて

京都中部総合医療センターのヘリポートや備蓄庫を見学させていただきました。ヘリは山間部である美山からも受け入れがあると知り、美山について調べてみました。美山町は住民の半数近くが65歳以上と高齢化が進んでいます。町には診療所しかなく大きな病院へ行くには車で30分以上かかります。美山町に唯一医師が常駐していた診療所が令和3年の4月に南丹市の直営となり、京都中部総合医療センターの医師も診察されていると知り、地域医療での京都中部総合医療センターの役割は非常に大きいと実感しました。

私は看護の技術、知識はもちろん南丹市の財政や高齢化など、地域の問題も3年間でしっかり学んでいきたいと強く思いました。そして南丹市の地域医療に貢献したいと思います。

しろやま 城山（八木城跡）登山

今まで八木町について全く知らなかったのですが、八木城は明智光秀と関わりがあったということやキリシタン武将である内藤如安を知りました。

登山前の講演では、400～500騎の馬がいたとお聞きし、昔の八木町がどのような雰囲気だったのか見てみたいと思いました。また登山中はガイドの方とたくさんお話をさせていただき面白く楽しい時間を過ごせました。八木町の歴史を学ぶことで地域を知りたいという思いと親近感が湧きました。この貴重な経験をもとに今後、八木町だけでなく亀岡市や京丹波町など地域の歴史や地域の方々と交流し、看護に活かしていきたいと思いました。

八木中学校キャリア教育に参加して

私たち2年生は本校の向いにある八木中学校のキャリア教育として「中学生の進路選択」をテーマにした交流会に参加しました。

中学生の皆さんから自分になりたい職業や叶えたい夢の話をたくさん聞かせてもらいました。なりたい職業が決まっている人もいれば決まっていない人、将来への不安がある人など様々であり、思春期の発達課題を学ぶことができました。正直にまっすぐ自分のやりたいと思うことに自信を持って進んで欲しいと思いました。またお話を聞く中で中学生時代の思い出が蘇ってきて懐かしい気持ちになるだけでなく、看護師を目指した時の初心に戻ることができました。看護師になる夢を叶えるために知識や技術を学習していきたいと思います。

ひきもと
1年生 久本 みつき



もりた ゆうな
1年生 森田 優奈



のぐち れいら
2年生 能口 鈴蘭



在宅医療への取り組み

訪問看護

訪問看護ステーションなんたん センター長 やす い ま り こ 安井 麻里子

訪問看護は病気や障がいを抱えながらも、患者さんが住み慣れた地域で安心して療養生活が続けられるよう、看護師がご自宅を訪問し必要な看護を提供します。寝たきりの方や、インスリン注射やカテーテル管理、在宅酸素や人工肛門などの医療処置が必要な方だけでなく、薬や食事などの健康管理上の相談、清潔や排泄のケア、介護されているご家族への支援など、乳幼児から高齢者まですべての方が訪問看護を利用することができます。原則亀岡市、南丹市、京丹波町にお住まいの方が対象ですが、担当地域がかなり広いため、近隣の他の訪問看護ステーションとも連携し、患者さんのご自宅近くのステーションをご紹介しますこともできます。

「もうすぐ退院だけど、家に帰ったら心配」「一人暮らしの家族の様子をなかなか見に行けない」など、お困りの場合には、入院中からご相談にのりスムーズに在宅生活に移行できるようサポートします。入院とは違い、在宅ではご本人やご家族が主役となります。看護師さんにお任せではなく、体調が悪くならないよう、よい状態が維持できるためにはどうしたらいいかを私たちも一緒に考えて、療養上のアドバイスをさせていただいています。

患者さんの「家で過ごしたい」というお声に対し、医師、看護師だけでなく、ケアマネジャーをはじめとする介護職、福祉用具担当者などと協力し、たくさんの知恵と経験を活かして患者さんの思いをかなえる支援をしたいと思っています。

まずはかかりつけの医師や、病院地域医療連携室のソーシャルワーカー、またすでに介護認定をお持ちの方は担当ケアマネジャーにご相談ください。



訪問リハビリテーション

リハビリテーション科・理学療法士 ます だ こう じ 桒田 宏司

リハビリテーション科では、主に当院から退院された方を対象に訪問リハビリテーションを行っています。理学療法士の2名体制で、訪問エリアは南丹市（園部町・八木町）、亀岡市とし、当院から車で片道30分以内の場所を目安に訪問しています。この訪問リハビリのメリットは専門職が直接患者さんのご自宅に訪問し、実際の生活場面での動作の確認や実践練習が可能なことです。

内容は単なる身体機能の維持・向上だけでなく、例えば家の中を歩く、トイレで排泄する、入浴する、家事をするといった患者さんの日常生活に直結した練習やその方の社会参加に向けての働きかけを行います。また、ご家族やご本人と関わる関連職種に対して自立につながる工夫や手段について助言をさせていただくこともあります。

「入院して帰ってきたら以前のような生活が難しくなった」

「これからやってみたいことがあるけど一人で出来るか自信がない」

「リハビリ職から自宅でのリハビリについて助言が欲しい」

例えばこんな思いをお持ちの方は退院後の生活支援の一つとして私たちの訪問リハビリをご活用ください。その人らしい暮らしを支えるために、リハビリテーションの専門職として少しでもお役に立てれば幸いです。

当院からの訪問リハビリの利用をご希望の場合は担当ケアマネジャーあるいは主治医までご相談ください。介護保険被保険者については介護保険制度が優先となります。



安全な看護を提供するため、 看護師を募集しています

看護部長 かわかつ ともこ
川勝 智子

京都中部総合医療センターは、地域の拠点病院として患者さん中心の良質な医療を行い、地域に愛され、信頼される病院を目指しています。

当院の看護師は、患者さんに対して「こころあたたまる看護を提供する」をモットーに、一人一人の患者さんに合った看護を行うことを方針としています。コロナ禍においても、専門性の高い看護師の活動や看護部の体制を構築し、地域医療を守るために一丸となって臨みました。また、地域の方からも温かい言葉や感謝の言葉をいただきました。

当院は「患者7人に看護師一人（7対1）」という看護配置基準を導入していますがこの基準を維持するための看護師の確保が、全国的な看護師不足の中当院における課題となっています。安心して働き続けられる職場・労働条件を整えることは、看護師の増員、また離職を防ぐこととなり看護師の定着につながると思います。

看護師免許を持っているけれど職についていない、看護師として再スタートしてみたい、子育ても落ち着いたから復帰してみようかな、転職を考えているけど、などと迷っている人、看護師への道を共に歩んだ公立南丹看護専門学校（現京都中部総合医療センター看護専門学校）の卒業生の皆さん、地域の皆さんを守り、安心・安全な医療を提供するため、京都中部総合医療センターで一緒に働きませんか。



地域医療連携室より

地域医療連携室 副室長 ひらい くみこ
平井 久美子



地域医療連携係

TEL : 0771-42-5061 (直通)

FAX : 0771-42-5071

退院調整係

TEL : 0771-42-3130 (直通)

FAX : 0771-42-5071

今年4月、地域医療連携室では2名の新人スタッフを迎えました。主に紹介患者さんにスムーズに診療や検査を受けていただくための調整を行う地域医療連携係に1名、入院患者さんの退院に向けての支援・調整を行う退院調整係に1名です（P6でご挨拶しています）。日頃の業務内容は違えど、同じ部署に同期がいるということで、切磋琢磨しながら頑張ってくれることと思いますので、どうぞよろしくお願いいたします。

地域医療連携室は、患者さんに適切な医療が提供できるよう、また当院での急性期治療を終えられた患者さんが、安心して在宅や次の療養先へ退院していただけるよう、地域の医療機関や福祉施設、在宅介護支援機関等と連携を図る病院の窓口としての役割を担っています。

当院と患者さん、地域の連携機関の皆さんをつなぎ、安心して地域で切れ目のない医療を受けていただけるよう、スタッフ一同さらに努力して参ります。

令和4年度 オープンキャンパスのお知らせ

看護師を目指す方々へ学校の紹介や模擬授業、体験学習などを通して、京都中部総合医療センター看護専門学校のことを知っていただけるように、オープンキャンパス・学校見学会を行っています。ぜひご参加ください。

●オープンキャンパス

日 時: ①令和4年8月 5日(金) 13:30~15:30

②令和4年8月27日(土) 13:30~15:30

内 容: 授業体験・血圧測定など看護技術体験・
在校生との交流など

※新型コロナウイルスの感染状況により
開催が中止となることがございます。



〈申込について〉

ホームページからお申し込み下さい。

<https://kyoto-chubukango.ac.jp>



〈お問い合わせ〉

〒629-0196 京都府南丹市八木町南広瀬上野3番地1
京都中部総合医療センター看護専門学校

TEL 0771-42-5364 FAX 0771-42-5422

看護職員募集

地域の拠点病院として、患者さん中心の良質な医療を行い
地域に愛され信頼される病院を目指しています。

あなたの輝ける場所を
見つけませんか!!

看護師寮利用できます。
(正職員)月額4,000円(税込)



〒629-0197

京都府南丹市八木町上野25番地

京都中部総合医療センター 総務課人事係

TEL 0771-42-2510(代) まで

詳しくはホームページをご覧ください。

<https://www.kyoto-chubumedc.or.jp/nurse/recruit>



編集後記

新型コロナウイルス感染症が流行してから3回目の夏を迎えますが、屋外でのマスク不要の政府方針が決定されたり各種イベントの再開等、今年は去年までとは違った夏になりそうです。

しかしながら、依然として新型コロナウイルス感染症は終息の気配を見せませんので、皆様も引き続き十分な感染対策をしてお過ごしください。

当院職員も感染対策を継続し、日々業務にあたってまいります。

広報委員会 N.Y.

病院スタッフはマスクとゴーグルを着用して業務を行っていますが、撮影のために一時的に外している場合があります。ご了承下さい。

